

マレーシア、新型コロナウイルス「第2波」の裏で政局争いは深刻化

～アンワル氏は政権崩壊を主張の一方、ムヒディン政権は与党連立のつなぎ止めに腐心～

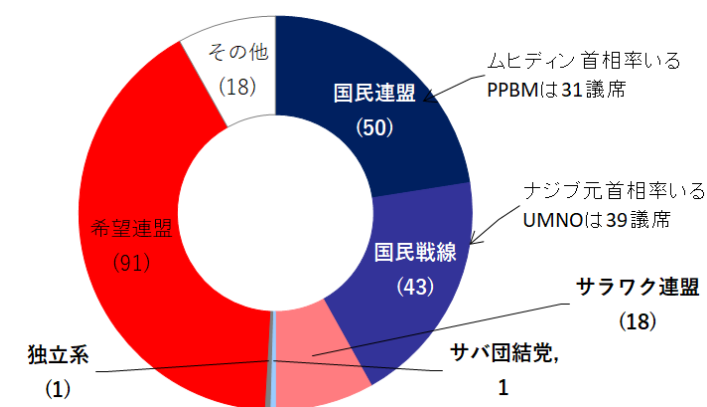
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

(要旨)

- マレーシアでは年明け以降、新型コロナウイルスの感染拡大が続く背後で政局を巡る争いが激化し、マハティール前政権が崩壊し、その後にムヒディン政権が発足した。ムヒディン政権を支える政権与党にはナジブ元首相が影響力を有する政党が加入する一方、議会下院で半数を辛うじて上回るなど脆弱な政権基盤が続いた。他方、先月末には有力州で与党連合が勝利したことでムヒディン氏の求心力が高まる動きもみられた。
- 一方、先月末以降は政局争いで敗れたアンワル氏が議会下院の半数を上回る支持を得たと宣言し、国王に首相任命を求める動きをみせる。新型コロナウイルスの感染「第2波」を受けて結論は先送りされる一方、警察はアンワル氏を捜査するほか、ムヒディン氏も与党連立のつなぎ止めに内閣改造を模索する。政局争いの長期化は新型コロナウイルス対応の後手に繋がる可能性も懸念されるなど、政治動向には要注意と言える。

マレーシアでは今年2月、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染が懸念される状況にも拘らず、マハティール前政権内で『ポスト・マハティール』を巡る対立が激化するなど政局争いが顕在化したことを受けて、マハティール前首相が政治的打撃の極小化や早期の事態收拾を図るべく突如首相を辞任した（詳細は2月25日付レポート「[マハティール、首相やめるってよ](#)」をご参照下さい）。結果、一昨年の議会下院（代議院）総選挙を経て、1957年の建国以来初めてとなる政権交代は2年足らずのうちに終えんを迎えた。なお、その後は政党の合従連衡を経てマハティールの腹心であったムヒディン元副首相を首班とする形で新政権が発足するとともに、新たな与党連合にはナジブ元政権下での最大与党（統一マレー国民組織（UMNO））が加わるなど、政権与党の枠組は大きく変化した（詳細は3月2日付レポート「[マレーシア、ムヒディン新首相誕生も政治混乱は必至の情勢](#)」をご参照下さい）。ただし、ムヒディン政権を支える与党連合は議会下院で半数をわずかに上回る勢力に留まるなど、新政権は極めて脆弱な政治基盤の下で船出を迎えた。他方、同国内で新型コロナウイルスの感染拡大の動きが強まっていたにも拘らず、担当大臣も対応そっちのけで政局争いに講じていたことを受けて国民の間には政治不信が高まることが懸念された。こうしたことから、ムヒディン政権は発足直後から国境封鎖のほか、外出禁止を規定した「活動制限令」の施行を通じて感染対策を講

図1 代議院における党派別議席数(10/2時点)



(出所)各種報道などより第一生命経済研究所作成、太字が与党連合

じていたことを受けて国民の間には政治不信が高まることが懸念された。こうしたことから、ムヒディン政権は発足直後から国境封鎖のほか、外出禁止を規定した「活動制限令」の施行を通じて感染対策を講

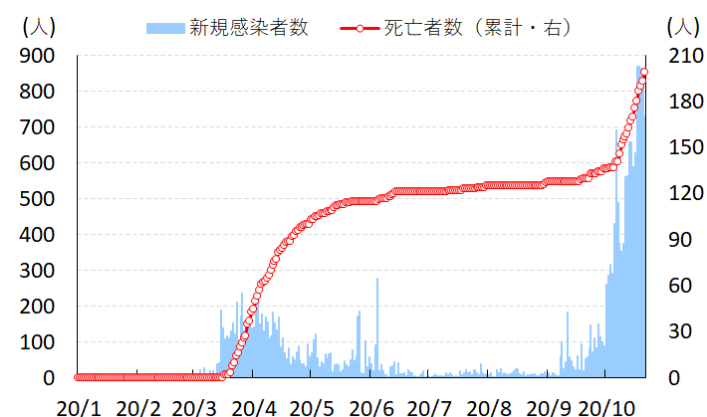
じたほか、法令順守を徹底すべく軍を動員するなど強力な感染封じ込め策に動いた。結果、その後は新規感染者数が頭打ちに転じたことを受けて、5月以降は徐々に活動制限の緩和に動いたほか、6月以降はほぼすべての経済活動が再開されるなど、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて大きく疲弊した経済の立て直しに向けた動きが進められた。一方、ナジブ元首相が隠然たる影響力を有するUMNOが与党連合に加わったことで、ナジブ元政権下での政府系ファンドを舞台にした汚職事件の扱いが注目されたが、7月にはナジブ元首相に有罪判決が下されたことを受けてUMNOが与党連合内で揺さぶりを掛けるなど、政権の行方に不透明感が高まる動きもみられた（詳細は7月29日付レポート「[マレーシア・ナジブ元首相に有罪判決も、政治の成熟化は期待出来ず](#)」をご参照下さい）。事実、その後は与党連合の切り崩しに向けた動きが活発化するなど政治闘争が再燃する動きがみられる一方、先月末に実施されたボルネオ島北部のサバ州議会選では、ムヒディン政権を支える与党連合が過半数を獲得して勝利を収めるなど、重要州での勝利を受けて与党連合の求心力の回復が期待される動きもみられた（詳細は9月28日付レポート「[マレーシア、新型コロナウイルス「第2波」の背後で政治闘争も再燃](#)」をご参照下さい）。

他方、先月末には政権交代の立役者のひとりであり、ポスト・マハティールの筆頭格のひとりとなされながら、政権交代後にマハティール氏が首相に返り咲いた後にはなかなか禅譲がなされない展開が続いたほか、上述のポスト・マハティールを巡る政局争いで最終的に後塵を拝したアンワル元首相が議会下院での多数派工作に成功したとの記者会見を行い、ムヒディン政権が崩壊したと主張した。なお、同国憲法では、首相の任命権に関して「国王が代議院の過半数の信任を得ていると判断した議員を任命する」と定められており、アンワル氏は先月末に新政権の樹立に向けて国王への謁見を求めている考えを示したものの、王宮は国王が体調不良を理由に病院の観察下に置かれていたために謁見が先送りされる状況が続いた。その後は国王の容体が落ち着いたことを受けて、アンワル氏は今月13日に国王に謁見する

とともに、代議院議員のうち120名の議員から支持を得ていることを示す文書を提出したことを明らかにする一方、王宮は「アンワル氏は支持を表明した下院議員の数は示したが、その主張を裏付ける議員名簿は提出しなかった」とした上で、「国王はアンワル氏に憲法に定められた手続きに従うよう忠告した」と表明するなど国王の判断を持ち越した。さらに、同国では新型コロナウイルスの感染拡大の『第2波』が顕在化する事態に直面しており、今月14日から首

都クアラ Lumpur や隣接するスランゴール州を対象に2週間に亘って部分的な都市封鎖措置（ロックダウン）が再導入されたことを受けて、王宮はすべての会合を2週間に亘って見合わせる判断を行うなど先送り状態となっている。一方、マレーシア警察はアンワル氏に対し、同氏を支持しているとされる代議院議員のリストに関する捜査への協力を要請しており、その理由として迷惑防止に関する刑法とマルチメディア法を挙げるなど、仮にアンワル氏が有罪となれば最高で2年の禁錮刑と罰金が科されるこ

図2 新型コロナの新規感染者及び死亡者(累計)の推移

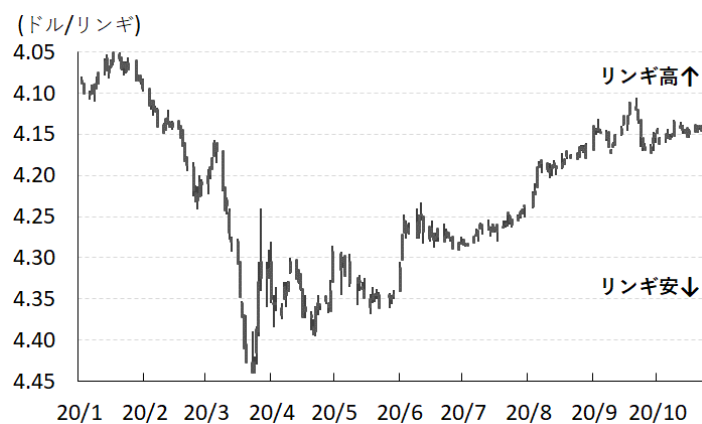


(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

とになる。他方、政局を巡る混乱が高まっていることを受けて、国王は政治家に対して憲法で定められた手続きと交渉を通じて問題を解決するよう呼び掛けるなど、通常は儀礼的な役割を担うのみである国王を巻き込む形で事態は混迷の度合いを増している。

ムヒディン政権は与党連立のつなぎ止めに向けて内閣改造を行い、与党連立内で揺さぶりを掛けるUMNOへの閣僚ポストを配分することで政権維持を図るとの見方が強まっている一方、そうした政局を意識した動きが強まるなかで新型コロナウイルス対応は後手に回ることが懸念される。通貨リング相場はこのところの国際原油価格の堅調さを背景に底堅い推移をみせており、政局を巡る混乱

図3 リング相場(対ドル)推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

が直接的に影響する状況とはなっていないものの、ASEANではタイで民主化運動が激化しているほか（詳細は16日付レポート「[タイの反政府運動は王室批判に激化、国民の分断が広がる懸念](#)」をご参照下さい）、インドネシアでも反政府デモが激化するなど（詳細は9日付レポート「[インドネシア、外資誘致法反対デモの裏にみえる「不都合な真実](#)」」をご参照下さい）、政治を巡る混乱が表面化する流れが広がりをみせている。各国の事情はそれぞれ異なるものの、新型コロナウイルスが目下の課題となっているにも拘らず政治対立の激化により対応が後手に回れば、事態收拾が遅れることで各国経済の回復の道が妨げられる懸念も高まるだけに、政治の動きを注視する必要性は高まろう。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。